

インターバンクの声（2017 年 12 月 15 日）

ロンドン市場では再び緩やかな円買い・ドル売りとなっていたドル円だったが、ニューヨーク市場の朝方に発表された 11 月の米小売売上高が前月比 0.8% 増加と市場予想を上回ったことでドル買いが活発化して 112 円 80 銭台に戻した。この米小売売上高の発表前には欧州中央銀行の定例理事会の結果発表もあり、成長見通しが上方修正されたことからユーロが対ドルで買われ始めた。しかし、その後のドラギ総裁の会見で、ユーロ圏経済が金融緩和の解除を正当化できるほど強くないことを示唆するなど、期待していたほど強気の内容ではなかったためにユーロが急速に売られ始めた。ユーロ売りが対円でのドル買いにも影響した時間帯もあったが、ユーロの大幅下落によるユーロ円の下げがドル円のつれ安を誘い、米長期金利の低下やニューヨーク・ダウのマイナス圏へ下落も加わって、112 円割れ目前までドル売りが進んだ。さすがにこの水準では値頃感からドルの買い戻しも入っているが、ドル・ロングのポジションの整理も完全には終わっていないようで、依然としてドルの上値は重そうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。